

年 度 評 価 シ ー ト

課名 男女共同参画・人権政策課

施設の名称 静岡市女性会館	指定管理者名 特定非営利活動法人男女共同参画フォーラムしずおか
1 履行状況	
(1) 目標達成 ア 講座受講生の理解度 目標値 80%以上、実績値 97.1% (前年度 96.9%)、達成率 121% (前年度 121%) イ 新規利用者数 目標値 1,100 人以上、実績値 1,409 人 (前年度 1,570 人)、達成率 128% (前年度 143%) 【参考】平成 30 年度 (コロナ前) 実績値 1,211 人 (2) 施設利用状況 ア 平均稼働率 48.2% イ 開館日 331 日 ウ 年間利用件数 7,181 件 エ 年間利用者数 64,482 人 (3) 人員配置状況 正規職員 10 人、時間雇用職員 4 人、嘱託職員 5 人の総勢 19 人 時間雇用職員の退職、受付業務対応に伴い新たに 2 人採用。相談室は、昨年度採用した経験の浅い相談員の育成に力を入れ、定着を図った。 (4) 業務実施状況 静岡市女性会館条例第 2 号に規定する各種事業について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。 主な事業と参加者数は以下のとおり。 ア 講座企画運営事業 事業計画書に掲載された全 21 講座を実施し、延べ 2,214 人の参加があった。 指定管理 4 期目の目標である「若い世代へ女性会館の認知度をあげる」ための事業を積極的に実施した。そのなかでこれまで高校生を対象に行ってきたデート DV 防止の学校出前講座は、初めて私立中学校で開催し、若年層への啓発を強化した。また、台湾からのオンライン配信し、近年話題のデジタル化推進やジェンダーギャップ解消などを学ぶ「パワフル台湾」、アロマンティックやアセクシャルについて基礎知識を学ぶ「恋する気持ちかわからない」、記録や思考の整理に役立てる「グラレコ講座」などオンラインの講座も実施した。 新規利用者は 659 人、講座受講者の満足度は全体平均で 97.6%、理解度も全体平均で 97.1% と非常に高かった。 さらに令和 5 年度実施した「すきをみつけるアートワークショップ」が、令和 6 年度開催の全国女性会館協議会主催のイチオシ事業大賞において大賞を受	

賞し、若年層へのジェンダー平等教育の取り組みが高く評価された。

イ 団体活動支援事業

本年度は対象を変更し、2回の利用者トークサロンを開催した。1回目は、Jo-Shizu 防災講座修了生を対象に、今後の修了生同士の交流の在り方について意見を聞き、LINE グループの活用について検討した。2回目は女性会館の男女共同参画団体として登録されている自助グループの代表者を対象に活動内容や会員募集、現在の課題について聞き取り、会員募集の改善について意見を参考にホームページのリニューアルに反映した。

ウ 情報収集・発信事業

メンターバンクでは、卒論や探究学習に関する問合せがあり、メンタリングを3件実施した。

情報紙「WAVE」は、全国の男女共同参画関連施設以外に市内の地域包括支援センターや民生委員や児童委員などにも配布し、女性会館事業への理解促進に活用した。

図書コーナーでは、新規登録者数が300人（昨年度298人）、貸出冊数は18,042冊で昨年度の17,503冊を上回った。貸出者数は5,410人（昨年度5,245人）、閲覧のみの来室を含む利用者数は15,004人（昨年度11,900人）となっており、いずれも昨年度より増加した。

1月から月1回新たに絵本専門士の資格を持つ職員による城東保健福祉エリアでの絵本の読み聞かせと図書紹介を開始した。また、各種イベントと連携した展示を行い、好評を得た。

エ 相談事業

「女性のための総合相談」は、電話・面接相談を248日、法律相談を24日開設し、年間で1,734件の相談があり、昨年度の1,706件から微増となっているが、法律相談は前年より12件、同行支援は4件減少した。

相談者は、40代から50代が相談全体の約半数を占めており、昨年度と比べて若年層の相談が微増した。相談内容を見ると、電話相談は、「家族・親族関係」「DV」「仕事・暮らし」という順で上位3位を占めている。面接相談は、約8割弱が「DV」に関するもので、「離婚・暴力」を加えると9割以上を占める。法律相談は、半数以上が「離婚」に関するものだった。

経験の浅い相談員のジェンダー視点強化のため、男女共同参画センターにおけるジェンダー視点を意識した相談の在り方について研修を実施した。その他、若年層への相談室の認知向上のために親しみやすいデザインの「しおり」を作成し、市内の女子高4校に1,220枚配布した。

就職・転職・キャリア相談は年間40件、にじいろ電話相談は年間24件実施した。

オ 施設管理・運営

各部屋の稼働率は平均で48.2%（前年度48.1%）であり、利用者数は64,482人（前年度65,751人）と、昨年度と同水準となった。

個別の修繕については、「ふみだす」のエアコン修繕、受付事務開始に伴い事務室ドアの錠前付け替え工事、空調設備の不調により緊急の暑さ対策としてサーキュレーターを設置した。修繕2件、小破修繕28件、保守・点検・改善51件、衛生管理・掃除36件対応した。修繕以外は、前年度よりも増加した。

【検証・分析等】

上記の5つの事業を有機的に連動させ、それぞれの機能が十分生かされるよう意識して行っている。

講座企画運営事業は、若い世代へのアウトリーチに注力しており、受講者の半数以上を10代が占めた。また、全国女性会館協議会主催のイチオシ事業大賞において大賞を受賞し、若年層へのジェンダー平等教育の取り組みが高く評価された。出前講座では、職員が講師を数多く務めたことで職員自身のスキルアップにつながった。

情報収集・発信事業は、様々な背景を抱えた人たちへの情報提供だけでなく、他事業と連携、近隣施設へ絵本の読み聞かせと図書紹介を開始するなど積極的に周知したことで利用者が増加した。

相談事業は、若年層への相談室の認知向上のために親しみやすいデザインの「しおり」を作成するなど積極的に周知したことで、昨年度と比べて若年層の相談が微増した。

施設については、開館から30年以上過ぎ備品や設備の老朽化が目立ち、修繕件数が増加しているため日々のメンテナンスが欠かせない。

【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

【具体的な意見・要望とその対応状況】

女性会館の男女共同参画団体として登録されている自助グループの代表者

会員募集の際、代表者等の連絡先を記載する必要があるが、「自助グループという特性上、連絡先等を公開しにくい」

【検証・分析等】

女性会館では、利用者からの意見・要望を吸い上げるため、定期的に利用者トークサロンを実施しており、複合施設である葵生涯学習センターと情報共有しながら、意見・要望を反映した施設管理を行っている。令和6年度は、男女共同参画団体の申請の際、必要に応じて会員募集についての書類を提出してもらい、会員募集中の団体に対しては、女性会館HPで活動日や連絡先などを紹介するようHPリニューアルに反映することで、意見・要望を適切に対応した。

【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

（1）利用者満足度調査

目的：女性会館の講座参加者の属性、地域を把握する。

対象者：講座やキャリア相談への参加者 延べ2,214人

調査方法：実地（講座やキャリア相談後）

調査結果：講座受講者に対して実施した講座満足度調査では、回答者2,035人のうち97.6%が満足と回答する結果となった。

【検証・分析等】

講座満足度調査の満足度は97.6%であり、良好な評価を得ている。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(2) 市民アンケート

【確認結果】

ー：未実施

(3) その他の調査

目 的：女性会館の講座参加者の属性、地域及び図書コーナーや相談事業の認知度を把握する。

対象者：講座やキャリア相談への参加者のうち共通の質問に回答した人延べ1,347人

調査方法：実地（講座やキャリア相談後）

調査結果：講座参加者の年代は10代が最も多く、次いで20代、60代の順に多い。

女性会館が実施している相談事業の中で知っているものを尋ねたところ、「女性のための総合相談」が33.8%（前年度29.0%）と高くなっている。その他の事業についても全事業で前年度より高くなっている。

図書コーナーがあることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が57.5%（前年度46.3%）と高くなっている。

【検証・分析等】

両アンケートともに女性会館で実施した事業の認知度が増加している。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

4 指定管理者の経理状況の評価

【収支状況】

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

【検証・分析等】

人件費及び施設費等で多少支出超過はあるが、それ以外支出超過もなく、執行されている。

【確認結果】

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

指定管理業務全般について、業務仕様書や事業計画書に従い良好に実施されている。

事業全般については、若年層に向けた事業を増やしているという工夫がみられ、新規利用者数が1,409人、講座受講生の理解度97.1%が目標より大幅に上回っているという点が高く評価できる。

引き続き、静岡市女性会館のノウハウや全国女性会館との情報共有といった強みを活かした施設運営をし、外部への周知を期待したい。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。